第４回「ふくまる夢たまごセミナー」

日　時　10 月 15 日（金）18：00～20：00

場　所　市庁舎 6 階第 4 会議室

内　容　「不登校の理解とかかわり」
～ 子ども理解をもとに不登校を考える ～
講師　池田市教育センター　教育相談員　柴田和義　氏

緊急事態宣言が解除され、開講式以来の対面でのセミナーとなりました。長年、本市の不登校問題にかかわってこられた教育センター教育相談員の柴田先生を講師に迎え、子ども理解をもとにした不登校対応について学びました。

当日は、教育実習や授業の関係で参加者は少なかったものの、事例検討やワークショップでは活発な意見交換が行われ、充実したセミナーとなりました。

講演の概要は以下の通り。（柴田先生のレジュメより）

１．不登校の要因
　対人関係によるもの、本人にかかわるもの、環境の変化によるもの
⑴小１プロブレムとは
⑵中１プロブレムとは
２．不登校の未然防止「子どもたちを理解し、困り感に対応する」
⑴子ども理解を深める
⑵子どもたちとの「かかわりスキル」を身につける
　《リフレーミング》《“YOU メッセージ”と“I メッセージ”》《傾聴》
３．不登校状態への対応「行動を起こさないと、解決は見えてこない」
　《アセスメント》《支援資源の活用と連携》
４．事例検討【小２の不登校児童のケース】
５．自己理解のワーク

「全国の不登校児童生徒は約 20 万人と言われています。大阪府では 12,000 人(小学生約 3,500 人、中学生約 8,500 人)が不登校となっています。学校に行けていないことで様々なリスクが発生することを心にとめておいてください。皆さんが実際に不登校生に関わる時にどんなふうに関わったらいいでしょう。今日の話は、不登校のみについてではなく、子ども理解というか子どもに関わる部分が中心の内容となります。」優しい語り口調でセミナーが始まりました。

最初に、不登校の未然防止についてのキーワードは「子どもたちを理解し、困り感に対応する」というもの。子ども理解を深めるには、先入観のフレームに入れない、違うフレームから捉えることが大切であることを数多くの経験からの具体例をもとに話されました。また、自分と相手との関係性を良好なものにするには、YOU メッセージではなく I メッセージで対応するとよいことなど塾生にとって貴重な学びの場となりました。

次に、不登校状態への対応について、当事者や保護者とどう向き合ったらよいのか、校内資源や外部資源の活用によって解決に導く方法等を紹介していただきました。

後半では、問題を外在化(客観化)したり、様々な価値観を知ったりするグループワークを通して、互いの意見や考えを共有しました。

【塾生の感想より】

〇今日学んだことは、違うフレームから捉えてみることの大切さです。私は、一つの先入観から物事を判断してしまう時があるので、気を付けなければならないなと思いました。また、「意味のリフレーミング」を用いることによって、子どもあるいは保護者を肯定し価値づけることによって、良好な関係性を築いていく一つの材料になるのかなと感じ、言葉をリフレーミング化する技術を身につけることが教師としての大切なことの一つだと思いました。何気ない声掛けが否定的にも肯定

的にもなってしまうため、視点や立場を相手に合わせた声掛けができるようにする必要があると感じました。

〇現場実習において、学校に行きづらい子どもたちが来る学習室でサポートさせていただいておりますが、今日の内容を受けて改めて「このようにかかわってみようかな」というふうに思いました。まず、褒め方の違いとして、私は両方の褒め方をしていたなと感じました。しかし、意識したことがなかったので、YOUメッセージがいいのか、Ｉメッセージがいいのか、場面ごとにしっかり考える必要があると感じました。生徒とどのよう関わるかという点において、すぐに話しかけず子ども主体となるようにすること、行動ではなく気持ちに共感すること、その子の中に問題を押し込めないということはとても良い学びになりました。また、価値観という話においては、様々な価値観があるという視点の広げ方や、また自分はこんな価値観を持っているんだなというところから、限られた視点だけでないように意識していくことができると思いました。とても現場で役に立つ講演でした。

〇人と接する場合、先入観を持ってしまったり、一度見てしまったネガティブなイメージをずっと持ち続けてしまったりすることが自分にもあることに気づき、見方を変えていくリフレーミングやＩメッセージで伝えていくことは、これからの生活の中で常に意識していこうと思いました。また、「共感しても同調しない」というお話を聞いて、ふくまるを含め実習等子どもに関わる機会の中で、これまで何度も共感を意識しているつもりでも、同調となっている声掛けをしてしまっていることに気づき、反省すると共にこの学びを来週から活かそうと思いました。そして、２つのワークを通して、子どもとの関係づくりの大切さや色んな価値観があることを知りました。自分の価値観が相手と大きく異なっていても対立するのではなく、価値観の多様性を認め、すり合わせて

いくことが大切であり、ジェンダーによる見方も取り払っていきたいと思いました。

〇今回のセミナーを振り返って、沈黙は必ずしもマイナスではないということが分かりました。今までは、自分の言い方が良くなかったり分かりにくかったから、相手が沈黙してしまうのかなと考えていました。しかし、お話を聞いて、自分の言ったことを受けとめてしっかり考えてくれていることもあると分かり、子どもと関わっている時に沈黙になってしまっていても、少し待ってみることも心掛けたいと思いました。また、一つのことをみんなで考えることの大切さも実感しました。「川を渡る女」（グループワーク課題）では、どの人を軸に考えるところから違い、同じ内容のことを考えていても全然違った解釈でした。そのため、他の方の意見を聞くことで自分の見方が広がったように感じました。この経験を生かして、現場で働くときも一人で抱え込まないことをしっかり意識していきたいと思いました。